

干潟の鳥ビンゴ

1. ねらい

- ・水鳥観察を通して、干潟に親しんでもらう。
- ・干潟で見られる水鳥の存在に気づき、主体的に観察するきっかけを作る。
- ・鳥の「色」・「形」・「行動」から、観察を楽しんでもらう。

参考 水鳥観察の基本が学べ、ゲーム性があるので、『干潟の鳥の観察』など本格的な水鳥観察の前に行う活動として適している。識別や種名の知識がなくても誰でも楽しめる。

2. 概要

- 所要時間 40分
- 時期 通年 干潮時(満潮でも鳥は見られるが、休憩している鳥が多い)
- 場所 順光で観察できる場所、護岸の上や浜など
- 対象 小学校低学年以上
- 人数 基本的に問わないが、双眼鏡等の観察道具の数を考慮する。
- 資材 筆記用具、倍率8倍程度の双眼鏡、倍率20倍以上の望遠鏡、合図用の笛
- 事前・事後学習 観察した鳥について調べる。
- 応用
- 安全管理 望遠鏡や双眼鏡で太陽や、水面に反射した太陽を見ないように注意する。夏は帽子をかぶり、日焼け対策をし、飲み物を用意する。また冬はウィンドブレーカーを着る。移動時は、ばらばらにならずに一緒に行動する。干潟では泥が深い危険な箇所もあるので活動範囲と注意点をしっかり伝える。潮汐の時間を把握しておく。



3. 実施の手順

導入(10分)

- ・鳥の観察を楽しむ「干潟の鳥ビンゴ」をやってみよう、と参加者に投げかける。
- ・ビンゴの進め方を説明する。
鳥を観察し、見つけられたイラストのマス目に丸をつけていく。タテ、ヨコ、ナナメいずれかに丸が4つ並んでそろったら、ビンゴができたことになる(つけた丸の数を競っても良い)。
- ・観察のポイントと注意点を説明する。
鳥の「色」・「形」・「行動」をよく観察すると、一羽の鳥の観察で複数の項目に丸がつけられる場合がある。季節によっては観察できない項目が含まれていることもある。
- ・双眼鏡の使い方を説明する(『干潟の鳥の観察』双眼鏡、望遠鏡の使い方を参照)。
①双眼鏡はひもを首から下げる。②裸眼の場合は接眼レンズの目当てを立て、眼鏡をしている場合は目当てを引っ込める。③目幅に合わせる。④ピントを合わせる。
- ・観察のルールと注意事項を説明する。
観察できたものだけに丸をつけること(後でその内容を確認することを伝える)。
鳥を脅かさない、太陽の光を見ない、活動範囲以外のところに行かない。
- ・集合時間と集合場所を伝え、観察開始を合図する笛を鳴らす。

展開(20分)

- ・観察の状況を見て、参加者にヒントを出す。
- ・まとめを円滑に進めるために、参加者が観察できた項目を把握しておく。

まとめ(10分)

- ・所定の場所に集合したら、丸が4つ並んだ列(ビンゴ)の数を数えてもらう。
- ・「どの項目が見つかったのか」、「どんな鳥だったのか」、「何をしていたのか」、「どこで見られたのか」、見つけた項目をもとに、観察結果を発表してもらい、全体で共有する。

4. 指導のポイント

・鳥を探すコツと道具の使い分け

鳥を探すときは、まず肉眼で、「杭や堤防の上」・「水際」・「水面」・「潮が引いた干潟」等を見渡し、どこに鳥がいるのか確認する。距離が遠いときは、倍率 8~10 倍の双眼鏡を使う。20 倍以上ある望遠鏡は、さらに遠い沖にいる鳥を探す場合や詳しい観察をするときに使う。

・観察を大切にす

マスに丸をつけることやビンゴの勝敗にこだわらず、参加者にじっくり観察をするよう促す。また、まとめではビンゴの数を問うよりも、どのような観察ができたのかを中心にふりかえる。